

耳と目で楽しむアラスカ

松山聴覚障害者向けライブ



要約筆記や手話通訳を受けながら、アラスカで撮影した写真を紹介する松本さん(右)

ワイドえひめ

News&T

聴覚障害者と一緒にアラスカの大自然をスライドショーで楽しむ「耳と目で楽しむアラスカ・フォトライブ」が27日、松山市山皇町の県男女共同参画センターであった。松山市の写真家松本紀生さん(50)が野生動物の写真と映像を紹介し、パノラマ入力に支那約筆記や手話での同時通訳が行われた。

松山市を中心に活動する「要約筆記パートナー歩歩」(代表理事 伊藤とも)に紹介。来会者、約30人が初め

聴覚障害者と一緒にアラスカの大自然をスライドショーで楽しむ「耳と目で楽しむアラスカ・フォトライブ」が27日、松山市山皇町の県男女共同参画センターであった。松山市の写真家松本紀生さん(50)が野生動物の写真と映像を紹介し、パノラマ入力に支那約筆記や手話での同時通訳が行われた。

松本さんは一年の半分のアラスカで活動。ボムボムをたたく音を聞き、遊水に泳いでいたサトウワシや、厚層林で約30センチに覆われた地面を踏みしめる様子を見ていた。

要約筆記や手話通訳を受けながら、アラスカで撮影した写真を紹介する松本さん(右)

筆記用スクリーンに振動を移しながら、熱心に見入っていた。

矢野会長(左)は「聴覚やレジャーの場での同時通訳はほとんど行われていない。聴覚障害者への情報支援がもっとも提供されるようになれば」と話していた。

(松本真理子)

掲載許可番号 20120101-00789